水稲疎植栽培の特徴と注意点

概　要 Abstract

疎植は田植え時に株の間隔を広げるだけの簡便な技術で、苗の量を減らして、稲づくりを楽にできます。しかし、稲の生育やコメの品質へのデメリットを回避するように注意が必要です。

左：　株の間隔26cm　の例　　右：　株の間隔13cm

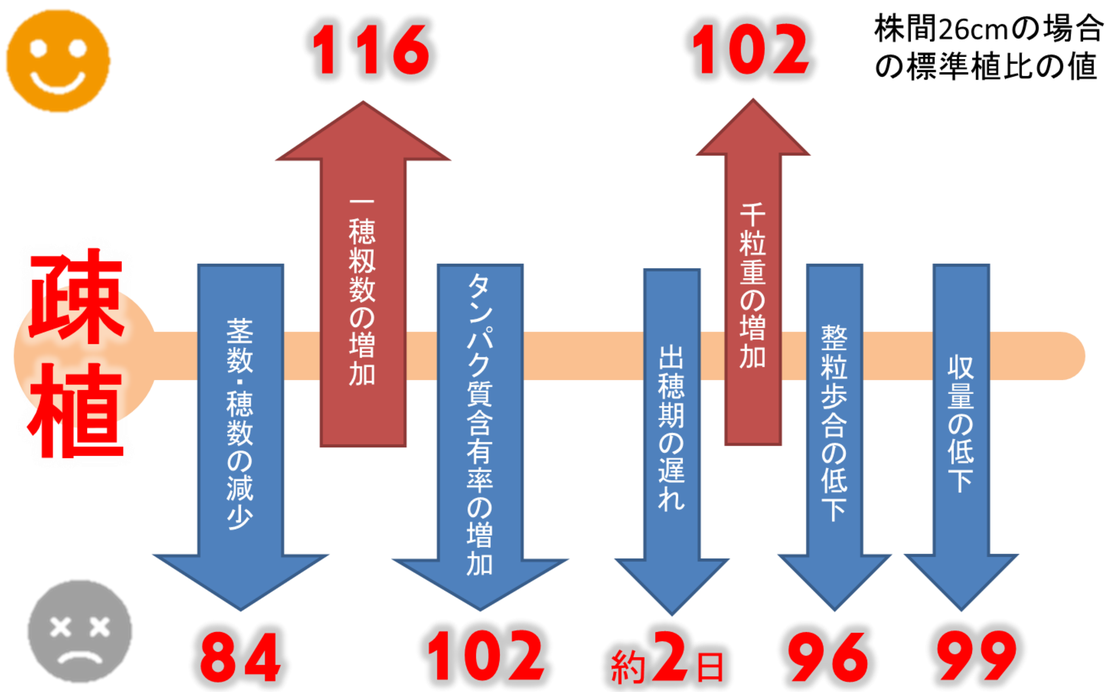
疎植

標準

※）　条間33cm

成　果 Results

疎植の特徴



北海道において、疎植栽培は水稲の生育や収量、産米品質を損ねてしまいます。

例えば、株の間隔を25～27cm（11～12株/m²）に広げると、出穂期が約**2日**遅れ、精玄米重比が**99**（最小84～最大121）、タンパク質含有率比が**102**　（最小95～最大113）　、整粒歩合が96になりました。

注意点と上手な利用法

現状のところ、
疎植は減収・品質低下の懸念があるので、
① 疎植による省力が必要な方が利用する。
② 導入時は疎植に伴う出穂期の遅れや減収と品質低下の緩和を図る。
など、関係機関とよく相談してご利用ください。

疎植栽培時におすすめの技術

- 早期移植
- 基本技術による分げつ促進
- 成苗

おすすめできない技術

- 遅い移植時の中苗
- 外観品質の劣る品種
- 出穂が遅めの品種
- （マット苗）植え付け本数の削減

普　及 Dissemination

（1）水稲疎植栽培を導入する際の参考にする。疎植栽培は良食味米生産に利用しない。
（2）田植え機は機種により対応できる栽植密度が異なるため、メーカーへの確認が必要である。
（3）側条施肥は栽植密度に応じた繰り出し量に調整する。
（4）本試験は「きらら397」「そらゆき」「ななつぼし」「大地の星」で実施した。

連絡先 Contact

中央農業試験場
生産研究部 水田農業グループ
０１２３－89－2001
central-agri@hro.or.jp